

保育目標を

つよい子 ▶ 正しく冒険できるたくましい心を育てよう



正しく冒険できるたくましい心を育てよう

- 失敗しても次に向かえる=冒険できる
- 一人ひとり、認め認められ

「身体を通して自然に触れようとする」

気づき

- 自分の良さに気付いて自信を持って行動する。
- 困りや伝えたいことを自分から発信する。
- 泣いていない子が必ずしも強い子ではない。
- 困った時に自分なりに答えを出すすべを学ぶ。
- 自分は「こう思う」を持っている。

挑戦・努力

- むずかしいことにぶつかっても何度も挑戦する。
- 最後までやり遂げようとする。
- 興味のあることを怖がらずにやってみようとする。
- やってみたくないと自分の力量を比べ挑戦する。
- やりたい意欲を持って自ら遊ぶ。
- 取り組みながら考えて工夫する。

良心

- 決まりを守る。
- 自分たちで生活を作っていこうとする。
- しても良いことと悪いことがわかる。

上記の姿に向かうための手立て、保育者のありたい姿

計画・ヒント

- 遊びの中で自分たちで考えていく場面。
- 身体の調整が身に付く場面(遊び)を取り入れる。
- こどもの育ちの身体性を意図的に遊びに含む。→**保育者も挑戦する姿勢を見せる。**
- しても良い状況を、安心安全の面で気付ける。→**周囲の子のやりとり(年長児)を見て知る。**

受容

- みんなに認められる体験。→**保育者は場を作りバックアップする。**
- 年長が仲介してくれる。→**その姿を見てやってみようとする。**
- 保育者がすぐ介入せず友達に促す。→**ヒント・お知らせ。**
- 自分の気持ちに共感してもらおう体験。

はげまし

- 失敗しても大丈夫と安心できる雰囲気作り、保育者だって失敗する。
- 一緒に行おうとする存在。こども同士だとなお良い。

見守り

- 困りを決めつけず保育者判断で手伝わない。発信を待つ。
→**発信できた!の繰り返しの体験。**
- 大丈夫と信じてまかせろ。→**放任ではない。**
- 答えを伝えるのではなく答えを導き出す。

よい子 ▶ 「智・情・意」豊かな心を育てよう



智(ものごとをよく理解)・情(思いやり)・意(心に思うこと)豊かな心を育てよう

- お互いを尊重し合う
- 自己肯定感を高めるために
- 「子」ではなく「心」を育てよう

受容・許される ▶ 心地良い居場所 ▶ 自己発揮

自己肯定感

- 自分が受け入れられている喜びを持っている。
- 自分のことが好き。

考える

- 自分のやりたいことに夢中で取り組む。
- 自分の意見を持ち、相手に伝えようとする姿。
- たくさんものや自然に興味を持つ。→**どう使うか疑問を持って、答えを考える。**
- より良くするための工夫をする。
- 人やモノに気が付く。
- 四季、自然、感情を感じる。
- 不思議さ(自然、事象)を見つめる。

思いやり

- 他の子の気持ちをわかってあげる。
- 困っている友達を助けようとする。
- さまざまな気持ちを経験する中で自分の心を振り返る。
- 他者をいたわり、大切にしようとする。
- 相手のためにできることを喜ぶ。

良心

- 友達と決まりを考えたり、守ろうとする。
- 身近な動植物の感動を共感し合う、伝え合う。
- 決まりや危険がわかった上で安全に行動できる。

上記の姿に向かうための手立て、保育者のありたい姿

仲立ち・お手本

- 異年齢で助け合えるよう、こども同士をつなげる。
- 言葉を代弁する。
- 「嫌だった…」マイナスの気持ち、「嬉しい」「できた」プラスの気持ち。
→**体験を認めてマイナスも保育者が支えていく。**
- 「他者を労わる」保育者の姿を手本として見せる。
- 「受容されている」醸し出される雰囲気。

環境設定

- 整えすぎない、導きすぎない。
- こどもの思いや気づきに共感する。
- 咎めたり禁じたりしない。
- 時間、空間、遊びの連続性の保障。

共に作り上げていく

- こどもたちと決まりなどを考える機会を積み重ねる。→**保育者も一緒に考え続ける。**
- 長期的(園庭の木、花、水など毎日行ける場所)に自然などの大きさに触れられる環境構成・感動体験。
- 「体験」から作っていく「こどもの声から」生まれる「保育・行事」。

なかよい子 ▶ 他人を尊重し、協力する心を育てよう



他人を尊重し、協力する心を育てよう

- 縦割り保育
- 認められることで認める心が育つ
- 「嬉しい」「楽しい」良い体験の共感体験

互いの認め合い

- 年長児の真似をする。
- 年中少児の見守り、手助け。
- けんかを通したかわり。
- 個人差に拘らず仲良くできる。
- 他者(年下の子に対して)を許すことができる心(気付く・受け止める)。
- 失敗や自信のない子に対して優しいまなざしを向けられる。
- 好きな遊びを見付けつつ、楽しさを共有(年齢を問わず)。

協同

- 協力してひとつのことを成し遂げる。
- 共通の目的を仲間と見出す。
- 仲間をばげまし「成し遂げて」喜び合う。
- 地域、園外の人たちとの出会いに親しむ。
- 一緒に嬉しい。

相手への思いやり

- 自分の意見を出しつつ友達の思いや考え、気持ちを受け止めたり気付いたりする。
- 友達の意見を聞き、違いがあった時、どうするか考える。
- 他者の困りに気付く⇨助ける、待つ。
- 助けようと心が動く。

上記の姿に向かうための手立て、保育者のありたい姿

こどものペース

- 困りをうばわない見守り。→**時間的ゆとり・臨機応変・共通理解。**
- きっかけ作り。→**「～し合う」に対して。**
- こどもに対する信頼。
- 手助けを「される」経験、「する」経験の折り重ね。
- 個人差を「個性」として発信する。
- 保育者の落ち着いた対応、気持ちに共感、代弁。
- こどものつながりを促す。
- こども同士が誘い合える機会作り。

環境作り

- こどもたちが一緒に話し合える場を設ける。
- 保育者が率先して手本になる。→**年長児へバトンタッチ。**
- 自分の気持ちに気付いてもらえる受容的なかわり。
- ホワイトボードの活用(視覚で意見の相違がわかる)。

2歳にとって、3歳にとって、4歳にとって、5歳にとって…
それぞれの育ちで、よりくっきりするように整理しよう。

「どのような」決まり、「どのような」生活、行い、困りetc…
年齢や発達によって考えると幅広い!!
そのことの「一つひとつ」を「具体的に」考えていく。